

2 社 会 科

学習者・生活者としての自立を育む社会科学習

上之園強・松田芳明・佐藤 健

1. 「豊かな気づきや感じ取りを育む社会科の支援」についての研究成果

本校社会科部では、これまで「問題を解決する（した）人間の営みへの共感」と「問題解決に見られる（見られた）人間の知恵に触れること」を、社会科学習づくりにあたって大切にしてきた。その結果、「実感」（人物の立場になりきる）、「こだわり」（その子なりの見方・考え方）という視点を重視しながら、豊かな気づきや感じ取りを育むための支援の仕方を、教材（学習材）開発・学習過程・学習活動の観点から、以下のように明らかにすることができた。

(1) 教材（学習材）の開発

- ①子どもに身近な地域素材・日常素材を活用したもの
 - ・自ら見て、調べ、考え、試してみるなどのように、自分なりに働きかけができること
- ②問題を解決する営みが含まれたもの
 - ・具体的な人物の姿が見え、主張が明らかであること
- ③魅力的で新鮮なもの
 - ・ほどよい抵抗感があり、意外性や驚きなどの心情のゆれを起こすこと

(2) 問題解決的な学習過程

子どもたち一人一人の気づきや感じ方を生かし、自分なりの学び方や解決の仕方などをつかみ、自分なりに社会に働きかけていくことのできる力を育むための基本的な学習過程

- ①社会的事象に出会い、自分なりの問題を見つける
- ②めあて追究の方法や計画を考える
- ③めあて追究の方法にそって個人や集団での追究や吟味をする
- ④追究結果を自分なりの方法で表現し、お互いに学び合う
- ⑤自分の追究活動を振り返り、自分の考えの変容や追究方法のよさに気づくとともに、新たな問題を見つける

(3) 人間の営みに迫る体験的活動の場の重視

- ①実体験（問題解決の営みの過程を実際場面でおこなってみる）
- ②追体験的活動（問題解決の営みの過程を模擬的にやってみる）
- ③触れ合い活動（現地に赴いて人々の生きざまを目の当たりにする）

2 「自立」についての研究の必要性

子どもたちの学習をみたときに、学ぶ目的が、「将来のため」「大人になるため」「社会で生きていくため」というように、自らの内面世界と切り離されたところで設定されていることがある。「今、なぜこれを学ばなければいけないのか」「何のために学ぶのか」を自問自答しないまま、与えられた学習課題を解決することに邁進させられ、自分自身や自分の生活を振り返る機会が奪われつつあるともいえる。

子ども達は、急激に変化する社会に適応するために学習するのではなく、社会の変化が人間生活にどんな意義をもたらすのかというように、自分（人間）とのかかわりの中で社会を見つめ、自分自身のあり方を見つめながら、自分自身を築きあげていくための学習が必要になる。子ども達のおかれている現状をみたとき、学習者としての主体性の回復が問題になってきているともいえる。

そこで、子どもたち一人一人の生活と結びついた学習を図り、「社会を形成する一員として、自ら考え、判断し、行動して、自分の生活を豊かにすることのできる力」を育むことが必要だと考える。学習場面においては、子ども一人一人が、自分なりの学習の仕方を習得して、自分なりの問題意識をもって、自分の力で問題の解決に当たろうとする意欲と方向性をもてるようにしていきたい。

3 めざす子ども像

学習面での自立のためには、社会生活面での自立が不可欠の要素になると考えている。このような考えに基づいて、自立に向かう具体的な子どもの姿をいくつか挙げてみる。

- 身の回りから問題や課題を見つけたし、それらに対して自分なりに予想したり、友達と交流したりして、問題意識を焦点化することのできる子ども
- 問題解決の方法や内容、手順など自分の学習計画を具体的に立案し、問題解決への見通しをもつことのできる子ども
- 自分なりの解決策に基づいて、資料を取捨選択しながら、課題を科学的に追究したり、合理的に意思決定したりすることのできる子ども
- 調査活動を自分なりの観点でまとめ、表現方法を工夫することのできる子ども
- 学習の過程で獲得した様々な能力（知識や技能など）を次への学習につなげたり、実生活に生かしたりすることのできる子ども

4 社会科として「自立に向かう子ども」を育むための方策

(1) 子どもの主体的な問題発見をうながす場の重視

学習問題が、子どもたちの実生活場面や体験的な活動、社会的事象の観察や資料の活用などの活動から導き出されるとともに、一人一人の問題や疑問が、学習集団共通の問題意識にまで高められるように発問や学習形態を工夫する。

(2) 学習問題・学習方法・学習のまとめ方にかかわる自己決定場面の重視

学習課題と学習資料の複数化、問題解決の方法や内容・手順について子どもによる学習計画の立案、自分なりの持ち味を生かした表現活動を重視する。

(3) 合理的意思決定能力を育むための話し合い活動の重視

環境破壊・経済摩擦等の社会的な問題を自分自身の問題として捉えて、自分なりの解決方法を見だし、話し合い活動を通して子ども達なりに最善の解決策を探っていく活動を重視する。

(4) 社会的事象との主体的なかかわりができる場の重視

学習を自分自身の生活と関連づけてとらえたり、社会生活場面に求めたりすることができるように、学習で獲得した力を実生活に生かすことができるように授業設計を工夫する。

(5) 教育内容のスリム化

社会的事象を網羅的に教育内容としてとりあげるのではなく、人間・環境・国際など、あるいくつかの視点を決めて教育内容を再編成し、各教科・領域間の教育内容の関連を図った学習や総合的な学習を創造する。

社会科の実践事例は、社会科（P43～P48）複式学級（P193～P198）の章に書いております。

……………参考文献……………

- ①広島大学附属東雲小学校『豊かな感性を育む』やまわき、1996年
- ②児島邦宏『学校文化を拓く』、図書文化、1993年
- ③文部省『初等教育資料、NO 658』東洋館出版社、1996年、P48～P59